

各種野菜におけるCs-137吸収割合の経年変化

福島県農業総合センター 生産環境部環境・作物栄養科

事業名 放射性物質除去・低減技術開発事業

小事業名 放射性物質の吸収量の把握

研究課題名 野菜の放射性物質の吸収量の解明

担当者 齋藤隆・高橋和平

I 新技術の解説

1 要旨

農地土壌に降下した放射性セシウムは時間の経過に伴い土壌への固定化が進むことから植物への吸収が減少することが報告されている。そこで、平成23年度から栽培されている5品目（キュウリ、アスパラガス、ブロッコリー、コマツナおよびパレイショ）の野菜における降下1年目から2年目および3年目の¹³⁷Cs吸収移行割合を算出した。

(1) 降下1年目から2年目の各種野菜における¹³⁷Cs吸収移行割合はアスパラガス、キュウリ、ブロッコリー、コマツナおよびパレイショでそれぞれ1年目比39, 60, 44, 49, 16%に低減した。

(2) 降下1年目から3年目の各種野菜における¹³⁷Cs吸収移行割合はアスパラガス、キュウリ、ブロッコリー、コマツナおよびパレイショでそれぞれ1年目比20, 47, 21, 19, 16%に低減した。

以上のことから極端なカリ減肥を行わない限り、野菜中の¹³⁷Cs濃度は前年度より高まる可能性は低い。

2 期待される効果

(1) 極端なカリ減肥を行わない限り、野菜中の¹³⁷Cs濃度は前年度より高まる可能性は低い。

3 活用上の留意点

(1) 今回試験は中通り地方中部の現地ほ場(淡色黒ボク土)で行われた。

(2) 交換性カリ含量が64~159mg/100g以上のほ場での成果である。

II 具体的データ等

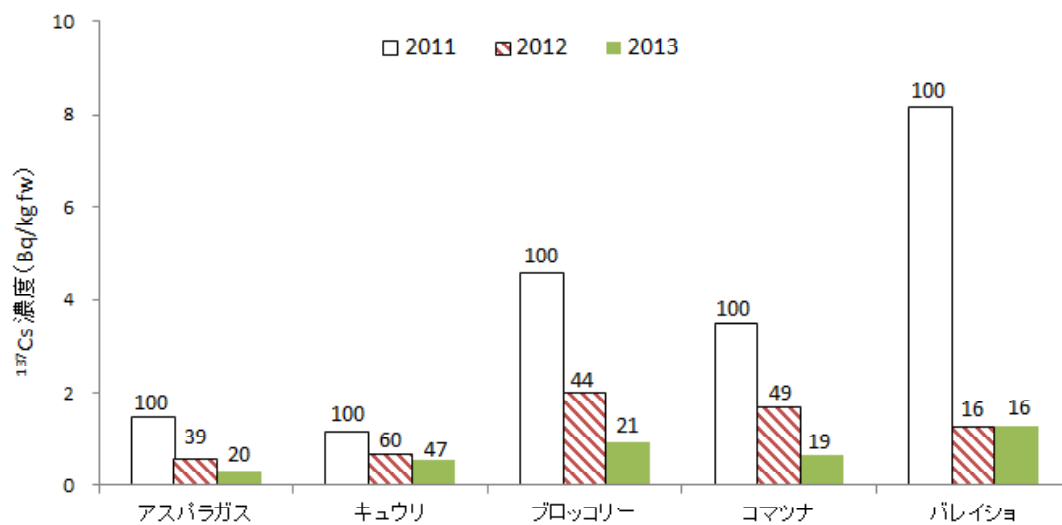


図1 各種野菜におけるCs-137吸収割合の経年変化

III その他

1 執筆者

齋藤隆

2 実施期間

平成23～25年度

3 主な参考文献・資料

- (1) 平成23～25年度農業総合センター試験成績概要
- (2) 園芸学会平成25年度春季大会発表要旨
- (3) 農業及び土壌の放射能汚染対策技術国際シンポジウム要旨集